

令和7年度 城陽中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

令和7年度 城陽中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)		平均IRTスコア	
			国語	数学	国語	数学	理科	
3年	学校	190	53	48	5.9	10.0	学校	531
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2	大阪市	489
4月16日・17日	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6	全国	503

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3年	学校	189	66.2	54.9	54.9	53.1	51.2	6.0	5.1	11.3	6.6	6.6
	大阪市	—	64.8	51.5	54.3	48.2	54.4	6.1	5.8	11.1	8.6	6.5
	大阪府	—	64.2	51.2	53.0	48.1	53.2	6.8	6.5	12.1	10.0	7.4
2年	学校	192	67.3	46.5	56.0	52.0	54.8	6.7	2.6	7.8	3.3	6.7
	大阪市	—	65.2	45.0	56.0	47.9	52.4	6.6	5.6	10.3	4.2	6.9
	大阪府	—	64.5	44.3	55.0	46.7	51.8	9.3	5.0	9.5	7.4	7.9
1年	学校	170	63.0	63.0	59.3	71.3	63.7	9.2	2.5	7.8	3.6	4.9
	大阪市	—	63.3	58.3	57.6	63.0	66.5	9.1	3.0	7.6	3.7	4.1
	大阪府	—	63.1	—	56.7	—	65.2	10.2	—	8.8	—	4.9

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は化学的領域を選択

※ 2年生の社会はA問題を選択

※ 3年生の理科はA問題を選択

3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年 実施月日		生徒数 (人)	読むこと	聞くこと	書くこと	話すこと
			【リーディング】	【リスニング】	【ライティング】	【スピーキング】
			(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)
3年	学校	190	113.9	103.8	154.2	94.2
	大阪市	—	117.4	110.2	146.4	98.4

4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力	上体 起こし	長座 体前屈	反復 横とび	20m シャトル ラン	持久走 男子1500m 女子1000m	50m走	立ち 幅とび	ハンドボール 投げ	体力 合計点
		(kg)	(数)	(cm)	(点)	(回)	(秒)	(秒)	(cm)	(m)	(点)
2年 男子	学校	48.30	48.20	45.60	50.40	50.30	47.00	46.50	50.00	50.00	48.10
	大阪市	49.60	51.30	48.60	50.20	50.50	47.80	49.30	49.20	49.30	49.50
	全国	50.00	50.00	50.00	50.00	50.00	50.00	50.00	50.00	50.00	50.00
2年 女子	学校	44.10	49.10	46.30	48.60	50.90		48.70	45.60	48.50	46.60
	大阪市	49.90	51.60	49.40	51.10	51.30		49.40	50.10	49.40	50.50
	全国	50.00	50.00	50.00	50.00	50.00		50.00	50.00	50.00	50.00

令和7年度 城陽中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査結果

(国語)

全国平均・大阪府平均と比較し、ほとんどの領域において平均正答率は、ほぼ同程度であった。「読むこと」の領域では全国平均・大阪府平均を上回った。日頃から読書習慣を身に付けるために、朝の学習タイム等での読書や授業時に重点的に音読を実施している成果があったものと考ええる。

(数学)

全国平均・大阪府平均と比較し、ほとんどの領域において平均正答率はほぼ同程度であった。「数と式」の領域では全国平均・大阪府平均を上回った。日頃から生徒が自ら考え、答えを導き出すように心がけ指導をしている。また、計算問題を中心に朝の学習タイムや授業時において計算問題を重点的に実施した成果があったものと考ええる。

(理科)

全国平均・大阪府平均と比較し、ほとんどの領域において平均正答率を上回った。一人一台端末を利用した調査であったが、当日はトラブル等もなくスムーズに実施することができた。

<今後に向けて>

(国語)

「読むこと」の領域では全国平均・大阪府平均を上回ったことから、今後も読書習慣を身に付けるために、朝の学習タイム等での読書や授業時に重点的に音読を実施していく。また、「書くこと」の領域では今後、授業で自分の意見や考えを書いてまとめ、班活動等で互いの考えや意見を共有し合う言語活動を実施する。

(数学)

今後も計算問題を中心に朝の学習タイムや授業時において重点的に実施していく。また、今まで以上にICTを活用し、図形の理解を深める。生徒が互いに教え合い学びを深める学習等を実施する。

(理科)

今後も、毎時間の授業を大切にするとともに、家庭学習にも力点をおき実施していきたい。

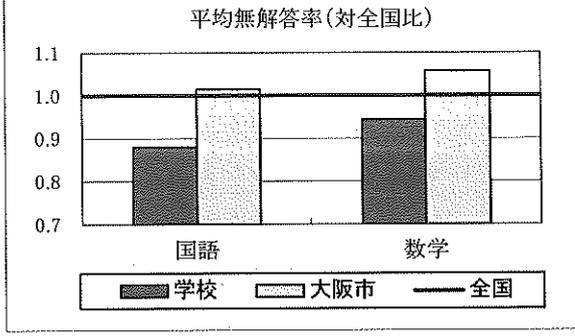
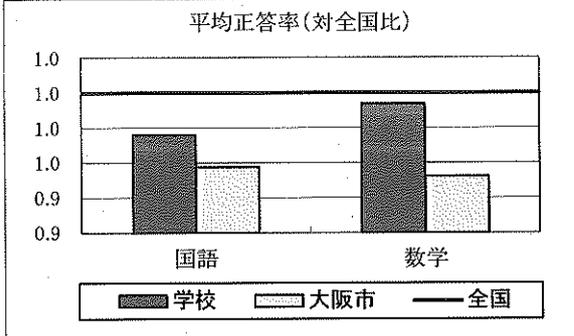
令和7年度 城陽中学校のあゆみ
 —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【 全 体 】

	平均正答率(%)	
	国語	数学
学校	53	48
大阪市	52	46
全国	54.3	48.3

平均無解答率(%)	
国語	数学
5.9	10.0
6.8	11.2
6.7	10.6

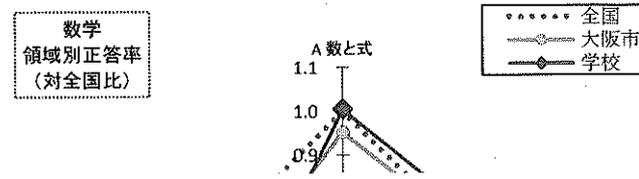
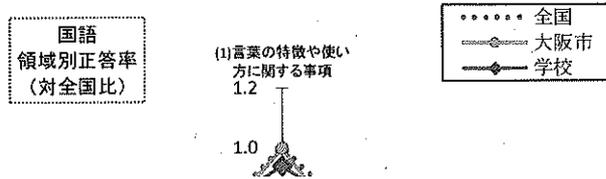
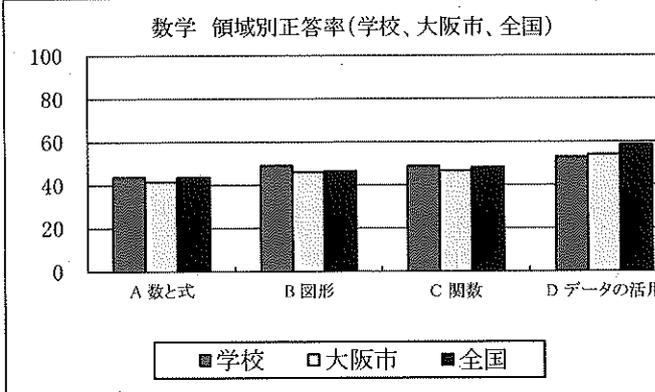
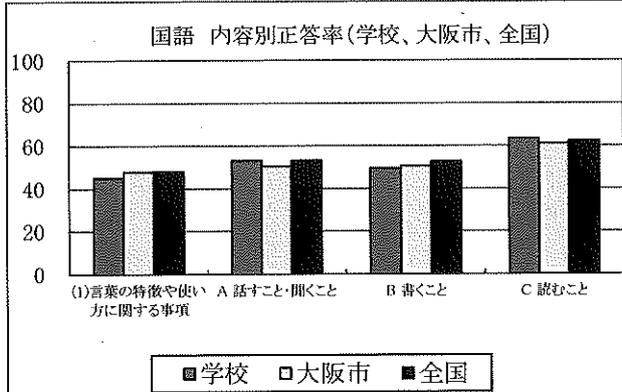


【 国 語 】

【 数 学 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	45.0	47.9	48.1
(2)情報の扱い方に関する事項	0			
(3)我が国の言語文化に関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	4	53.1	50.4	53.2
B 書くこと	5	49.6	50.6	52.8
C 読むこと	3	63.3	61.0	62.3

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	43.7	41.4	43.5
B 図形	4	48.9	46.1	46.5
C 関数	3	48.7	46.6	48.2
D データの活用	3	52.8	54.0	58.6

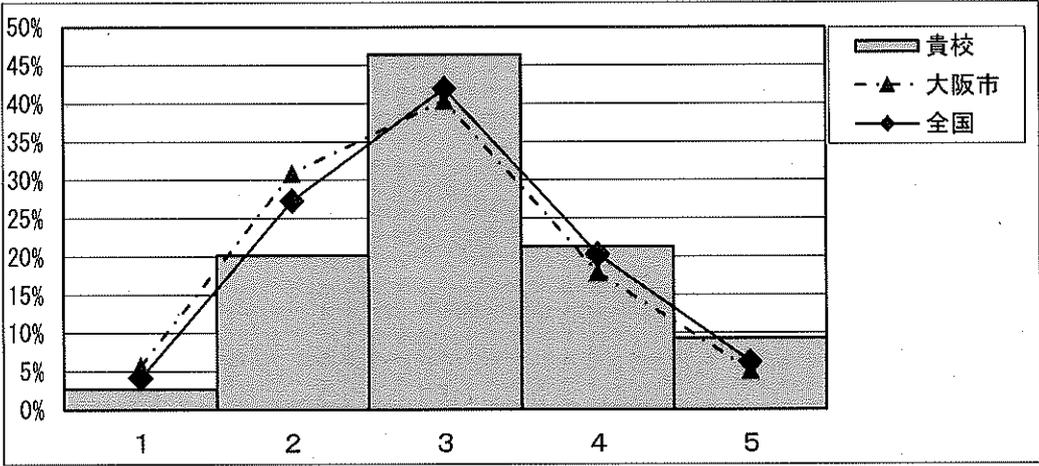
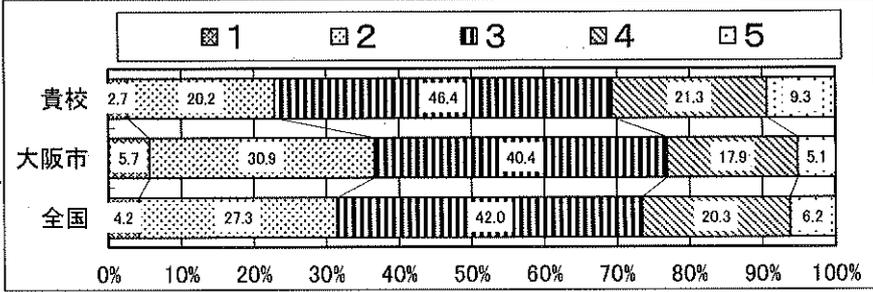


令和7年度 城陽中学校のあゆみ
 —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【理科】

	平均IRTスコア
学校	531
大阪市	489
全国	503



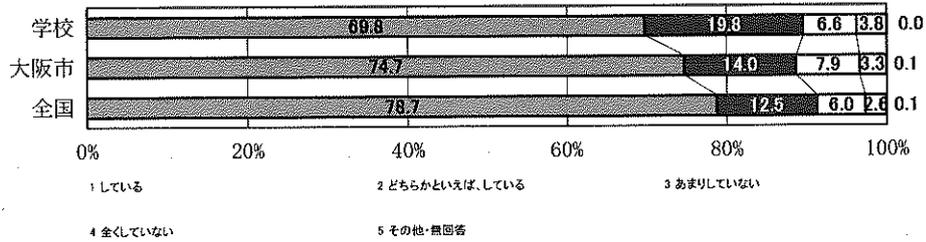
令和7年度 城陽中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

生徒質問より

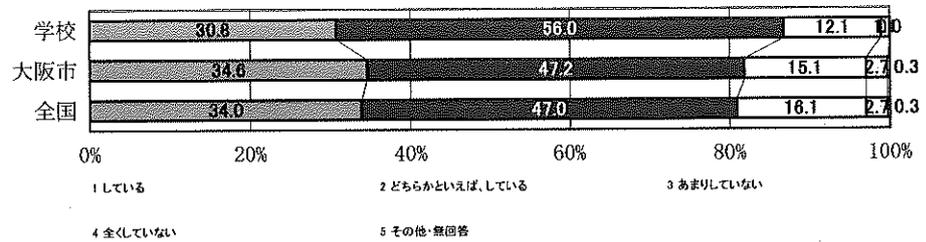
■ 1 ■ 2 □ 3 □ 4 □ 5 ■ 6 ■ 7 □ 8

質問番号
質問事項

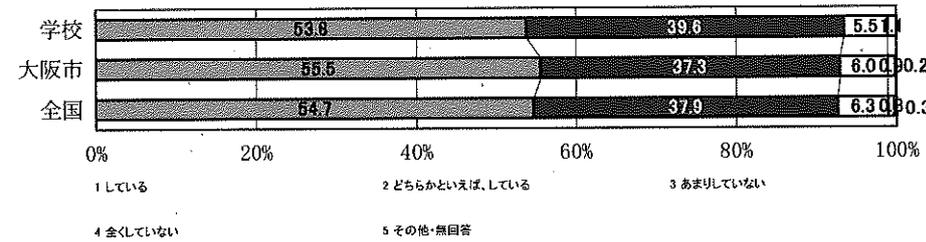
1
朝食を毎日食べていますか



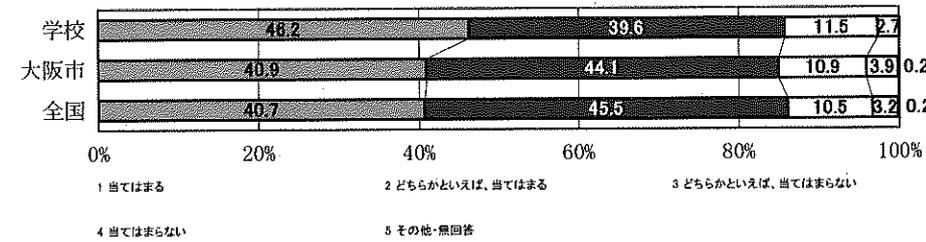
2
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



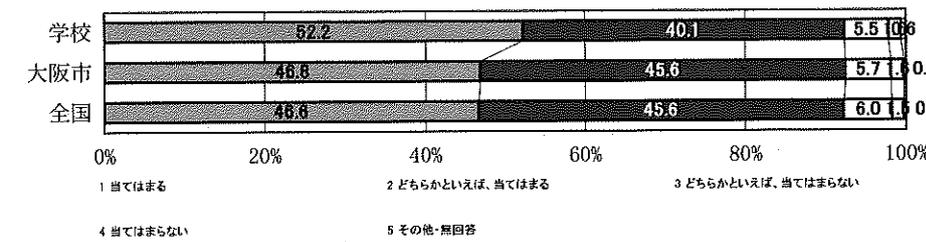
3
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか



5
自分には、よいところがあると思いますか



6
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



令和7年度 城陽中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

学校質問より

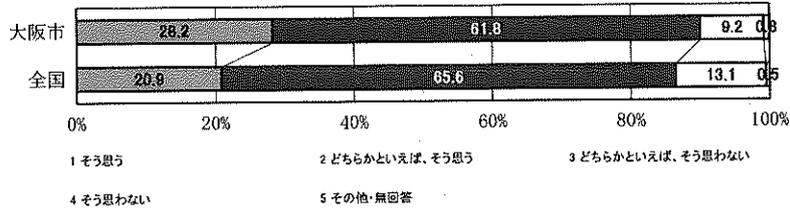
■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 □8 □9 □10

質問番号
質問事項

7

調査対象学年の生徒は、熱意をもって勉強していると思えますか

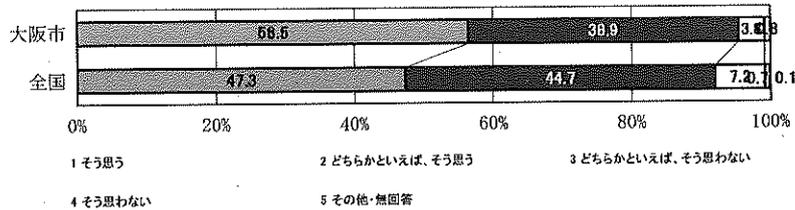
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



8

調査対象学年の生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思えますか

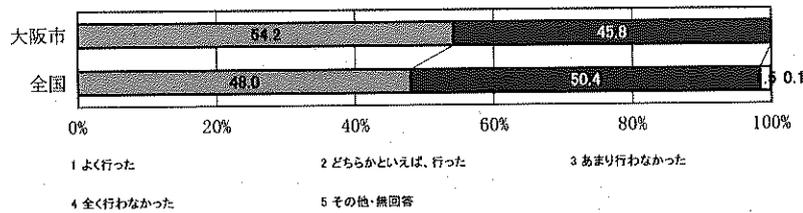
学校 「そう思う」を選択



9

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか

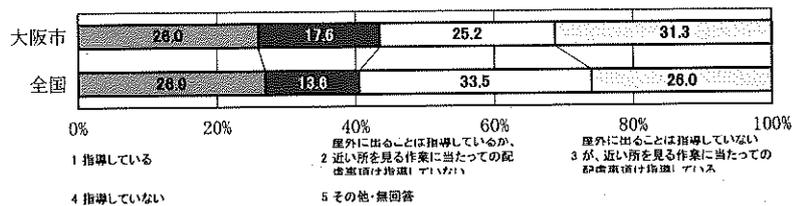
学校 「よく行った」を選択



10

近視の予防の一環として、学校の休み時間(昼休みを含む)や放課後などの時間(部活動の朝練・放課後練習を含む)に屋外に出ることや、読書や電子機器の使用などの近い所を見る作業に当たったの配慮事項(対象から30cm以上目を離す、30分に1回は目を

学校 「指導していない」を選択



11

前年度に、教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行いましたか

学校 「月に数回程度行った」を選択

